

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200223		
法人名	株式会社 中央ライフサービス		
事業所名	グループホーム おり鶴		
所在地	三重県四日市市南小松町629番地		
自己評価作成日	令和4年2月3日	評価結果市町提出日	令和4年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490200223-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和4年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホーム、のんびりとを理念に掲げ、利用者様やご家族様のニーズに合わせたサービスの提供を心掛けております。一人一人の個々に合わせたサービスを行い、利用者様が安心して生活できるよう支援して行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周りは水田で囲まれ、隣には同一経営法人のデイサービス施設が併設されている。車の往来も少なく静かな環境の中、利用者が事業所での生活を、自宅で生活しているような安心感でゆったりと時間を過ごしてほしいというグループホーム理念を、管理者・職員は第一に考え、日々利用者支援に取り組んでいる。今期もコロナ禍が継続しており、またコロナ感染が身近で起こったことから、感染予防が重要な課題となったため利用者の地域交流に大幅な制限がかかっていたが、その中でも利用者が楽しんだり、笑ったりできるよう食事を工夫したりドライブをしたり、管理者・職員が協力して支援を行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービス理念を玄関に掲示している。全職員が常に見れるようにしている。業務会議でも、入居者様目線でみんなで話し合っている。	職員は、利用者が入居後も自宅で生活しているような安心感を日々感じてもらえるよう、法人理念に基づき、アットホームな雰囲気職員同士協力してつくり支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する2つの自治会には入っているが、コロナ禍でイベントなども行っていないようで、交流は難しい。	事業所に隣接している自治会二つに加入しているが、コロナ禍の今期は地域との交流は行えていない。コロナ禍が明けた際は、以前のように地域の祭りや掃除に積極的に参加することを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、開催が難しかった。R4.1に開催した時に、会議の後、参加していただいた皆様に水消火器を使った訓練に参加してもらいました。	R4.1月は通常開催したが、その他の開催日は、会議参加予定者に書類を郵送することで開催した。利用者家族に会議資料として、ヒヤリハットや事故報告書を開示するなど意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の事などは、書面での報告は行っていた。聞きたい事や困り事があれば、その都度、電話や書類提出の時などに相談を行っている。	ケアマネが、介護認定更新で市役所に書類を提出したり、わからないことがあると電話にて市の高齢福祉課に問い合わせを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむをえない場合を除いては、身体拘束はしない、してはいけない事は、業務会議で話しをして、職員に周知してもらっている。	身体拘束適正化の指針を整備し、適正化の委員会を毎月開催している。議題としてスピーチロックなどを取り上げ理解を深め、職員に会議や話し合いを通じて周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今、学ぶ機会を持つ事が出来ていない。入居者様の中に必要な方もいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時に説明し、その時々等に家族様に話を聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会を控えてもらっている。毎月の手紙で、近況報告を行ったり、写真を同封するようにしている。	毎月、利用者の様子を書いた手紙を写真とともに家族に郵送している。そのあと家族に電話連絡をしてコミュニケーションをとり、意向を確認するようにしている。	現在コロナ禍のため、面会が原則禁止されている。面会は家族の意向を確認する重要な機会でもあるため、コロナ対策した面会を工夫して実施されることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議や普段でも、相談などがあればその都度話を聞き、反映している。	年に1回、法人統括が職員と個人面談を行うほか、管理者も職員と契約更新時、意見交換し話し合う機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	更新の時などに、個々に話を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足などにより、研修を行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でもあり、外部の方との交流は難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された時に、ご本人様と沢山話し、今までの生活の事、好きなこと、家族のことなどを聞き、安心して生活してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の時、その後も何かあれば電話連絡等で話を聞き、要望に添える様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、家族の方が一番必要な事を考えて、こちらから提案し、行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人一人が出来る事を考え、一緒に出来る事を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様と家族様の絆を壊さないように、間に立って協力していこうと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会、外出が行えない状況なので、現状は厳しいと思います。	コロナ禍で、面会を制限したり外出制限を行っているため満足な取り組みはできていないが、手紙を書いて家族に出すなど支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格などを出来るだけ把握し、食事の時やレクの時の座る位置なども考えて、座ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と沢山話をして、その中でご本人様の希望をくみ取るようにしている。	入浴時などリラックスされている時間や職員と1対1になれる夜勤時に、意向を確認したり、意向の確認が困難な方は、家族に以前の生活を聞いたり、嗜好品を確認するなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や家族背景などを聞き、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の動きや、会話の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様、ケアマネ、介護職員等で話をしていき、現状に合わせて計画書の作成を行っている。何か変化があれば、その都度話し合い内容の変更を行っている。	本人・家族の意向を聞き、主治医の意見を参考に半年に一度、ケアマネが、モニタリング内容に基づき職員参加のサービス担当者会議を経てプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入していき、何か変化があれば申し送りノートを使い職員同士の情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、状況に合わせてみんなで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名中8名が協力医をかかりつけ医にしている。月に2回の往診を行っている。残り1名は、家族様の都合に合わせて受診してもらっている。	24時間対応の協力医による月2回の訪問診療を受けている。利用者の一人は従前のかかりつけ医を利用しており、通院時は家族が付き添っているが、家族と密に連携を図るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問を行ってもらっている。その時に、医療的な相談事をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供を行っており、状態の報告もしている。退院時は、病院からの指示に忠実に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に、心身の変化が見られた時は、その都度家族様に報告させてもらい、話し合いを持っている。	入居契約時に終末期の事業所の取り組みを説明し、利用者の状態変化時も何度も家族や本人と話し合い意向を確認し、意向に沿うよう事業所としてできることを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、対応が出来る様に救急法は学んでおり、連絡方法や連絡先は明確に表示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、定期的に行っている。災害時、懐中電灯やカセットコンロを準備したり、食料の備蓄をしている。	8月には避難訓練を行い、避難経路の確認をし、1月は消火訓練を実施し、事業所玄関前で利用者参加の中、消火器を使った消火作業を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に声掛けをする際は、特にスピーチロックになっていないか？気にしながら声掛けをおこなっている。	日頃から利用者への声掛けがスピーチロックに当たらないか職員同士で注意しあい、研修でもスピーチロックを議題として取り上げプライバシーに配慮した声掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と、話をする機会を沢山持ち、会話の中から思いや希望を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の過ごし方や、ペースを考えて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の好みで、着替えや身だしなみを行ってもらっている。出来ないところだけ手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃ごはん食で提供しているが、パン好きの方もいるので、日曜日はパン食で提供している。	職員がご飯・汁物を調理し、委託業者から届く食材を加熱後あわせて提供している。食前には机をふきんで拭いて配膳に備える利用者もいる。誕生日には利用者の好みの食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは同じですが、一人一人に合わせた量でもりつける。水分量は紙面に残して、摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、促し行なってもらっている。一人一人に合わせた介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた間隔で、トイレ誘導を行なうようにしている。	布パンツ2名、リハパン5名、紙おむつが1名である。利用者の多くは、職員の見守りでトイレで排泄している。夜間はポータブルトイレを2名が利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は出来るだけ、摂ってもらえるように促し、毎日、午前中にみんなで体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めてしまっているが、時間帯は入居者様の希望を聞いている。	木曜、日曜日の週2回を入浴日として、午前中から順番を決めず、一人ひとり時間をかけて入浴している。どうしても入浴拒否がある際は清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜が眠れなくなってきたら、家族に相談をし、病院へ行くなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の薬情が直ぐ見れるようにしている。薬の変更があった時は、申し送りノートに記入し、職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の時に、ご本人やご家族から話を聞いたり、誕生日は、ご本人の食べたい物を出してあげたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で難しくなっている。	天気の良い暖かい日には、地域を職員と一緒に散歩したり、通院時に少し遠回りして近くをドライブしたり、コロナ禍でもできる外出支援を行っている。季節にあわせて、ドライブで桜やコスモスの花見に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年に1～2回、入居者様本人が家族に手紙を書く機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様達で、作った作品や壁画を飾っている。	利用者が1日の大半を過ごすリビングは、天井が高く陽光が差し込み明るく暖かい。季節感を感じてもらうため、壁には書初めを飾ったり、ひな祭り時にはひな人形を展示するなどしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子だけではなく、ソファなどゆっくり座れるところもあり、皆で座ってお話をよくされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていたものを持ってきてもらったり、部屋に飾ったりしている。	洋室だけではなく和室が二部屋用意されており、ベッドではなく畳の上の布団で寝たい利用者の希望にもこたえている。人形を飾ったりしてそれぞれが思うように部屋を使われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は、わかる様に表示を付けたりしている。		